

1. Introduction

- ・本チャプターの目的は L2 熟達度としての構成要素が早期 L2 発達において、どのような相互作用があるのかの調査を目的とする。
- ・L2 学習者は反復的に学習された **Formulaic sequences (FS)** 使用し、既存の文法知識で処理できないコミュニケーションのニーズを補完しており、FS は初期の L2 学習者の発話でよく見られる。
⇒L2 学習者の初期の文法力と FS 間の相互作用は、どのように学習者が複雑・正確・流暢な言語の使用と、コミュニケーション的なニーズの間に起こる不安を解消しているのかを知る興味深い方法となる。
- ・FS とは、言語的規則から個人で生み出すものというよりはむしろ、記憶し、思い出す多数の形態素のユニットと定義されている。(Myles, Hooper & Mitchell 1998: 325)
⇒つまり慣習的な表現？
- ・SLA での「産出された学習者の中間言語文法構造は習得を意味する」という仮定は、文法能力の不足に関わらず情報交換が可能であるロールプレイのような、初期の習熟度段階では問題がある。
- ・情報交換には早期学習者にとって複雑な文法が必要である（例えばクラスルームのような）が、彼らはそのような状況の中にいる。にもかかわらず初期の L2 発達において、多く産出される FS の果たす役割は、未だ明らかになっていない。
- ・本チャプターでは長期的な FS と習熟度の様々な側面の相互作用の研究を通してその疑問を明らかにする。

2. Methodological issues

2.1 Definition

- ・FS は全ての人間のコミュニケーションのなかでは非常に頻出であり、L2 学習者の分野ではない。
- ・FS の他にも様々な用語が用いられて説明されているが、今回は言語心理学者 Wray の定義 (2002, 2008)、『言語的文法によってよりむしろ、記憶を利用した単語や他の要素の連続的・非連続的な配列である』を参考に分析を行う。

2.2 Identification

- ・FS と学習者の他の発話を対比させるために、CAF の概念を単位項目 (**Identification Criteria**) として使用する。
- ・Weinert (1995) で述べられている、最も一般的に使用されている項目を使用する。説明は以下で行う。

2.2.1 Greater length and complexity

- ・FS は一般的に長い発話であり、他の発話よりも複雑である。以下がその例である。この例は同一学習者の発話であり、第 3 者の年齢を聞こうとしている発話である。(本文ではフランス語表記から始まっているが、英語の表記から始める)

① Which age have you

“How old are you?”

⇒How old is he?

② he age brother

⇒how old is his brother?

- ・上記の①は wh-疑問詞の前置や時制動詞、主語・動詞倒置があるため、統語的に複雑な発話である。しかし意味論的には第3者の年齢を聞くため、学習者の意図とは誤っている。そのため Pallotti's (2009) のコミュニカティブなゴールを果たす発話であるかという adequacy の項目では fail である。
- ・対象的に②は、単に名詞の並列であり、動詞も含んでいないため統語的にシンプルな発話である。そのため形態統語的には不正確な文章であるが①の発話と違い、意味論的には適切である。

2.2.2 Greater phonological coherence

- ・FS は同一学習者の他の産出と比べて、流暢で躊躇さがない傾向がある。

③ When is the date of your birthday?

“when is your birthday?”

⇒when is HER birthday?

④ Is... she happy birthday?

⇒when is her birthday?

- ・③はポーズがなく流暢であるが、④はためらいや立ち止まりがある。

2.2.3 Inappropriate use and overgeneralization

- ・FS はたいてい不正確に、意味的にまたは統語的に使用される。

⑤ My little boy which age have you

“my little boy how old are you”

⇒how old is your little boy?

- ・この発話は誰の年齢を聞いているか明確に組み立てられていないため、Pallotti の adequacy の項目に fail している。

2.2.4 Non-substitutability

- ・FS はたいてい同じ形で発話され、それらは修正や代用されない。

⑥ Have you any brothers or any sisters

“do you have any brothers or sisters?”

- ・FS 中の個々単語は他の単語と代用はされず、個々には使用されない。データ上⑥の Have you は FS 以外の発話では使用されなかった。

2.2.5 Accuracy

- ・FS は一般的に文法的には正確であり、また学習者の発話パターンとの関係性はないようである。

⑦ How yourself-call-you

“what’s your name?”

⑧ Uhm... a name

⇒what’s his name?

- ⑦は疑問詞の前置があり、再帰代名詞、動詞の倒置もある。反対に⑧の発話は単なる名詞句である。⑦の発話はクラスの期間が終わった後のものであり、⑧の発話は7つのクラス期間が終わった後の発話である。そしてその結果は慣習的 (formulaic) な状態に注意を払っていないとした場合、学習者の退行へ導いた誤った結果となる。
- 今まで見てきた5つの項目は最も一般的で、広く受け入れられている。
- ある発話が formulaic かどうかを判断する重要な要素は、同一学習者の産出文法を比べることである。その配列が明らかにその学習者の発話と比べより統語的に複雑であり、より流暢で、より正確であればそれは formulaic である可能性がある。
- さらに、その学習者の産出文法がコミュニケーションなニーズを果たすのに十分習熟できていなかった場合、学習者の中間言語に不適切なコンテキストであると一般化できる可能性がある。